

2023年度 第2回教育課程連携協議会議事録

日時：2024年2月21日（水）15：00～16：00
形式：対面会議

総委員：8名

（名古屋功、木戸田力、堀田宗徳、後藤克治、東俊昭、本昌康、奥野善徳、木下孝治）

出席者：8名

（内 訳）

本人出席：6名（名古屋功、木戸田力、堀田宗徳、東俊昭、奥野善徳、木下孝治）

代理出席：2名（本昌康 代理：加藤高聖、後藤克治 代理：舟山忠彦）

書面表決者：0名

欠 席：0名

随 行：1名（白山市 北村）

陪 席：岡内祐一郎、近藤昌朗、事務局

議 長：名古屋功（学部長）

【教育課程連携協議会次第】

1. 開会

2. 学長挨拶

- ・同日に開催した学生正課外・研究活動報告会「食マネ講座」の紹介。

白山市協力の「和菓子開発」「柿の健康促進について」などが発表され、本学が養成する人材像「自分で考え、行動する」を体現した活動との説明がなされた。

3. 委員の紹介

4. 報告事項

（1）臨地実務実習について

- ・岡内学長よりこれまでの取り組み状況について説明がなされた。

①今回よりイオンリテール株式会社での実習がスタート。

②食について関心はあるが、コミュニケーション力が低い点が課題である。

（2）企業からの課題、要望について

- ・臨地実習受入企業としてこれまでに感じた課題や状況・大学への要望について、以下の通り意見があった。

発言者	内 容
奥野委員	<p>実習する企業によって方針が異なる。企業ごとにどのような体験をしたか、どんな成長があったなどをまとめると今後学生も実習先を選択しやすいと思うので、報告会などで改めて伝えてほしい。</p> <p>→名古屋学部長より、報告会では主に学んだことを発表しているが、今後は企業で得た学びをもっと共有できるように工夫したいとの回答があった。</p>
加藤委員	<p>初期の受入ではマネジメント部門をあまり見せられなかったので、以降、学生とヒアリングを通して、希望と調整しつつ経営会議の見学など、実習内容を計画している。</p> <p>大学内でどのような事を学んでいるかを知る機会として、食マネ講座に参加。学生本人の希望を把握し、大学とも事前に密な打ち合わせ・すり合わせができると、さらに連携が高まると思う。</p>
舟山委員	<p>今回の受入では社内の接客コンテストやスキルアップ研修の見学を行う。前回より一歩踏み込んだ実習ができればと思う。全社会議には学年が進んだ時に参加する事も検討。同じ学生で続けてもらいたいかもしれない。</p> <p>→岡内学長より、今期の学生は臨地Ⅰ・Ⅱは実習先を続けるという認識、理解を深めていくことを重視しているとの回答があった。</p> <p>また、エムアンドケイの例を挙げ、実習を通して学生の「学びたい次元」が向上することを望みたいとの意見を述べた。</p>
木下委員	<p>年マイノベーションが起きている社会で、現場と学内で人をどう育てるか。それぞれでなければいけないことが多くある。様々な試みを通して、求める人材像を一緒に作り上げたい。</p>

5. 審議事項

(1) 業界・企業が求める人材、人物像について

- 名古屋学部長より別紙資料を踏まえ、今後のカリキュラム見直し、授業向上につなげるため、各委員に対しフードビジネス業界に求められる人材について意見を求めた。各委員からの意見は以下の通りである。

発言者	内 容
木下委員	能力・熱意より「考え方」が重要。専門学校での取り組みはよく聞いているが、掃除等を通して「心・人間力」のベースを育てる教育をお願いしたい。
加藤委員	将来のマネジメント人財として、数字を味方にできるようにすると良い。数学が苦手でも、「なぜこの数字になるのか」という興味を持ってほしい。実務では原価・売上・利益などで必要となる。また、マーケティングの本質として「それをやって、どうしていくのか」というところにも関心を持つことが必要。
舟山委員	<p>人間形成の科目はあるか？</p> <p>→岡内学長より、科目としてはないが、リレー講座などを実施し、企業経営陣がどのような思いで運営しているのか、お客様への提供価値をどこで生み出しているかなど生の声を聞く機会を設けている、と回答があった。臨地実習での今後の課題として、売上・コストなどを現場で実感し、感じた疑問などを学内で再確認できるようにする。会計学など全てできる必要はないが、工夫して指導していきたい。</p> <p>コミュニケーションはどこから学んでいるか？（サークルなど）</p> <p>学内コミュニケーションについて今後ますます積み重ねが必要。集団生活・コミュニティ等の中から学ぶこともある。</p> <p>→岡内学長より、今の若者をどのように理解し、対応していくかは企業も大学も大きな課題。25年度以降は人間教育の科目も入れていきたいとの回答があった。</p>
奥野委員	イオンイーハートでは現在経営理念の刷新を行い、標語ではなく物語のような長い文章を作っている。PDCA サイクルの研修セミナーなどの開催。ちゃんとできている社員が幹部となり、成果がない人は現場で終わることが多い。フレームワークの概要を身に付けると説明力やプレゼンもうまくなるのでは。
東委員	業界が違って共通するところがある。現場に出るとコミュニケーションがうまくいかない場合も。市でも「育てていく」ということを行っている。デジタル化に伴う見直し、効率化による意識の変化・セミナーの実施。

働く人が減っていく未来に向けて「サービス」を低下させないための取り組みを行っている。地方創生の取り組みとしてぜひ地元白山市でも食マネ生が活躍してほしい。
--

6. 閉会

- ・名古屋学部長より、各委員の「基本的な能力・人間形成が重要」という意見をもとに、今後のカリキュラム・授業改善を検討するとの説明がなされた。